

18足都市発第 号  
平成18年11月 日

東京都 都市整備局長  
柿塚 至 様

足立区 長  
鈴木 恒年

平成19年度連続立体交差事業新規着工準備採択について(要望)

標記の件について、別紙のとおり要望します。

担当 足立区 都市整備部 市街地整備・立体化推進室 副参事(鉄道立体化)  
三宮、須藤  
03-3880-5111 内線(2580、2581)

# 平成19年度新規着工準備要望箇所 東武伊勢崎線（竹ノ塚駅付近）

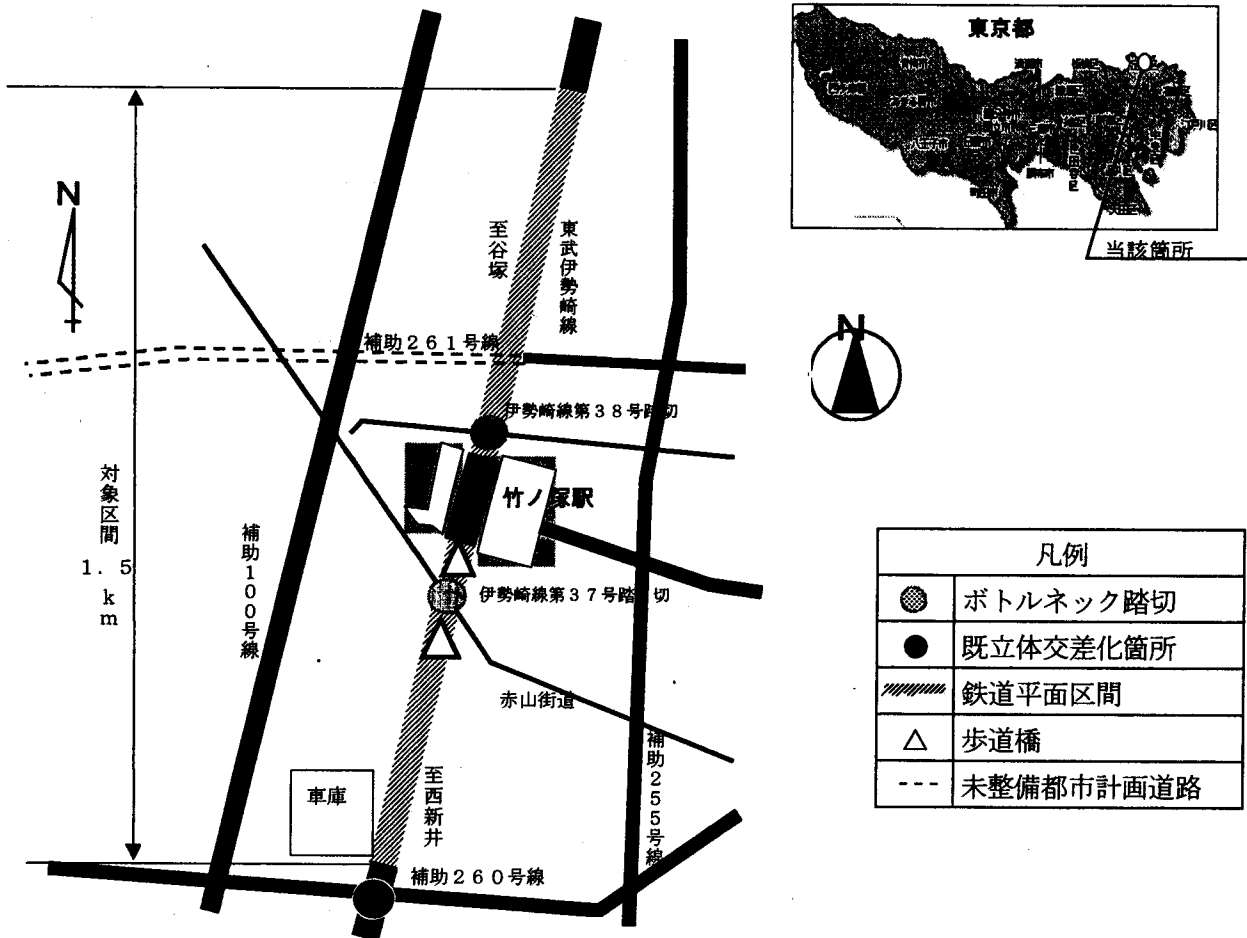
## 1. 概要

本事業区間の竹ノ塚駅付近では、駅南北にある伊勢崎第37号踏切、伊勢崎第38号踏切ともにピーク時1時間に2～3分しか開かず、1日の踏切遮断時間は約15時間にも及んでいる。当地区では、歩行者、自転車での東西交通が多い現状から、安全で快適な日常生活は阻害されている。

そのような状況の中、平成17年3月に伊勢崎第37号踏切で4人が死傷する痛ましい踏切事故が発生した。平成18年3月までに同踏切に歩道橋（自転車対応の斜路・エレベーター付）を設けるなど緊急踏切対策を講じ、一定の成果をあげているが、踏切事故の解消のため抜本的な対策が求められている。

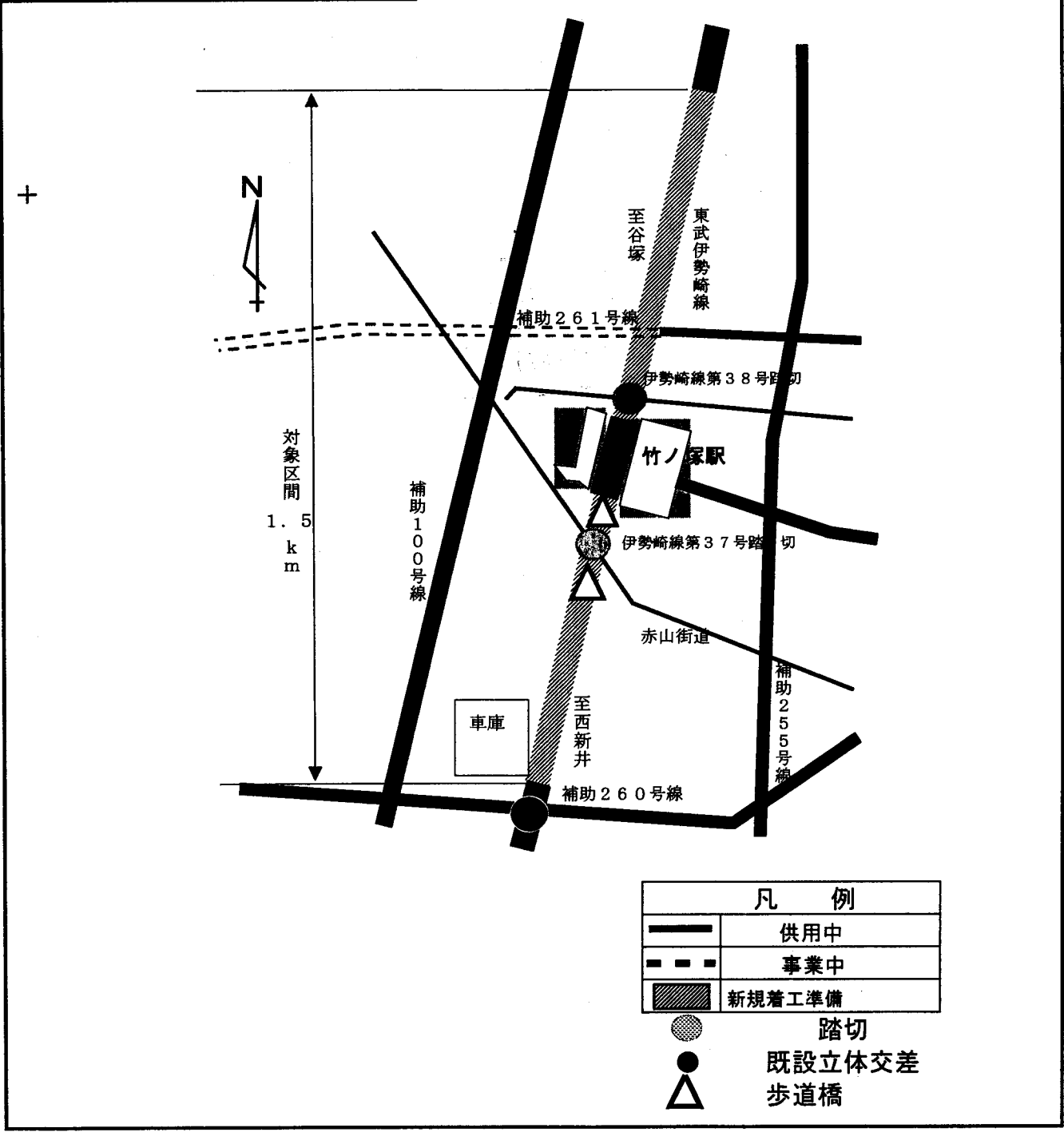
## 2. 計画内容

所在地：あだちくたけのつか 足立区竹の塚六丁目～栗原四丁目  
 延長：長：L＝約1.5km  
 除却踏切数：2箇所（うちボトルネック踏切2箇所）  
 全体事業費：C＝約500億円



平成19年度 新規着工準備要望箇所

事業区分	街路事業		
事業名	(連続立体交差事業) 東武伊勢崎線(東京都足立区) (竹ノ塚駅付近)	事業主体	足立区
起終点 (箇所)	自: <small>とうきょう あだち たけのつか</small> 東京都足立区竹の塚 至: <small>とうきょう あだち くりはら</small> 東京都足立区栗原		
延長	約1.5km		



とうぶ いせさき たけのつか  
東武鉄道伊勢崎線(竹ノ塚駅付近)

1. 事業概要

- ・路線名: 東武鉄道伊勢崎線とうぶ いせさき ちくたけのつか くりはら
- ・事業区間: (起終点)伊勢崎線: 足立区竹の塚～栗原  
(延のび長)約1.5 km
- ・通過市町村名: 足立区
- ・踏切交通遮断量: 6万台時/日
- ・事業費: 約500億円
- ・事業計画: 平成19年度(着工準備採択)～平成32年度

2. 事業の必要性

東武鉄道伊勢崎線竹ノ塚駅付近において、東西間の交通は、駅南北の「開かずの踏切」に頼っている状況であり、安全で円滑な地域連絡は慢性的に著しく阻害されている。従前より地元住民から鉄道立体の要望が出ており、足立区では立体化に向けて検討を進めていたが、平成17年3月に駅南側の第37号踏切で、4人が死傷する踏切事故が発生した。

この事故を受けて、改めて地元町会では鉄道高架化について署名活動に取組み、現在までに、216,993名の署名とともに、「東武伊勢崎線竹ノ塚駅付近の鉄道高架化早期実現を求める要請書(国土交通大臣、東京都知事、足立区長、東武鉄道社長宛)」が足立区長に提出されている。

このような状況から、本路線を立体化し、踏切事故の抜本的な解消、安全かつ円滑な駅東西交通の確保、駅東西の一体的なまちづくりを進めるものである。

併せて、駅前広場や都市計画道路の整備、交通結節点機能の強化、都市機能と土地利用の更新を進め、区北部の地域拠点として活性化を図るものである。

3. 直接効果

- ・事業区間に存在する踏切が除去され、交通渋滞及び踏切事故を解消
- ・市街地の分断が解消され、周辺地域を一体化
- ・鉄道高架方式で事業化がされた場合、高架下空間を創出し、公共・公益施設の整備が可能

4. 間接効果

- ・駅前広場が整備されることによる交通結節機能の強化  
予想される箇所(参考): 関連街路事業と併せ竹ノ塚駅前東口広場・西口広場を整備
- ・周辺街路整備が一体的に実施されることによる都市交通の円滑化  
予想される箇所(参考): 都市計画道路補助261号線、赤山街道
- ・周辺面的整備が一体的に実施されることによる土地の有効・高度利用の実現  
予想される箇所(参考): 竹ノ塚駅西口地区地区計画区域等

5. 事業に至るまでの経緯

H18 連続立体交差事業調査(国庫補助)